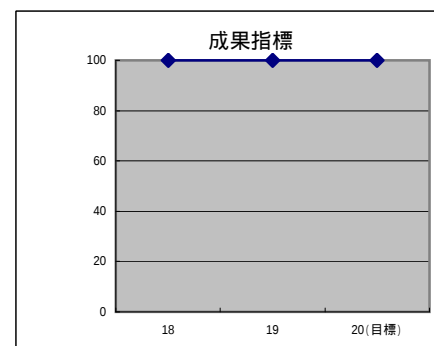
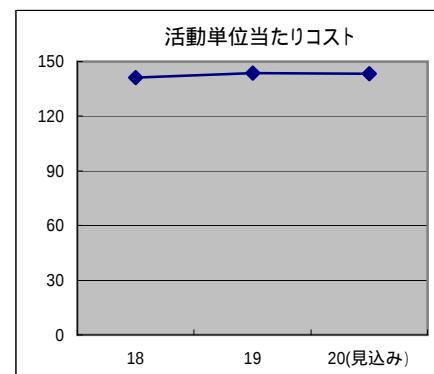


事務事業名		グリーンボックス貸出事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	8	土木費	
					項	4	都市計画費	
					目	3	公園費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		事業	3	緑化推進(グリーンフェスタ)	
	施策(節)	10	公園・緑地・緑化		作成部署 土木部みどり公園課			
	施策の方向	(1)	緑地の保全と緑化の推進		連絡先	072 - 958 - 1111 内線 2420		
関連する計画等								
事業の対象(誰を・何を)								
町会、商工会などの地域団体、および事業所								
意図(どういう状態にしたいのか)								
地域の美観向上と住民間のコミュニティ形成、事業所の地域緑化への参加を促す。								
事業の目的								
申請のあった団体、事業所に対し費用対効果を考慮し現地調査の上、貸出個数を決定する。プランター・用土・花苗、又は、苗木を配布し団体に植付けから管理までを依頼する。(花苗の配付は年1回)								
(平成19年度の貸出状況)								
141団体の参加のもとで、大型プランター524ヶ、小型プランター2,109ヶ、ハンギングポット720ヶを貸出し、パンジー19,576株を配布								
根拠法令等 羽曳野市グリーンボックス貸出事業実施要綱								
事業開始時期 ☐ 昭和 ☒ 平成 4 年 月開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度								
事業開始時からの状況変化 平成18年度より、財政健全化に向け新規の貸出は中止								
市民や議会の要望								
実施手法 ☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()								
委託先		☐ 外郭団体委託	名称	委託内容				
		☐ 民間委託						

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		1,112	1,015	1,044
人件費【2】 (千円)		1,818	1,902	1,818
職員数	正規職員	0.21 人	0.22 人	0.21 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.03 人	0.03 人	0.03 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,930	2,917	2,862
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	2,930	2,917	2,862
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
花苗の配布数 株		20,760	20,300	19,980
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】)		141 円	144 円	143 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		24 円	24 円	24 円



成果指標	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	式)	適正管理率(%)	参加団体が植付けやその後の管理を適正に行っているか	目標	100	100	達成率(%)
				実績	100	100	100.0%
	式)			目標			達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市民参加による地域緑化とコミュニティの形成を促す上で市の関与は必要である。
								○	○		

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	街の景観づくりには有効な手法と考える。現在、新規の貸出を休止しているが、再開の声を良く聞き、市民の感心が高い事業である。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☐	☒	☐		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	財政健全化の観点から、事業の見直しを求められている。そのため、現在は新規貸出を休止し、既貸出団体への対応のみによる必要最小限の事業運営としている。	
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	プランターを置くことで、街の景観の向上に寄与している。植え付け、管理の作業を通じて、コミュニティの育成も図られる。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	運営は各団体の自発的な活動により、支えられている。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	適正に管理が行われている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部 局 評 価	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	花苗による地域の美観形成に貢献し、生育管理を通して住民のコミュニティが育成されている。財政健全化の観点から現在、新規貸出が休止しているが再開への要望がある。
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)
	より効果的な緑化施策を含め実施方法を検討していく。